

【大分県中津市】

1人1台端末の利活用に係る計画

1. 1人1台端末をはじめとするICT環境によって実現を目指す学びの姿

中津市では、第2期教育振興基本計画の中で、目指すべき教育の基本構想として「自立する力を育て、社会で活躍できる人材の育成」「いつでもどこでもだれでも学べる環境づくり」を掲げています。その根幹にあるものは「一人ひとりを大切にした教育」であり、みんなが活躍する学びです。ICT環境によって実現を目指す学びの姿も、この理念に基づき「ICTを活用した授業の日常化」「個別最適な学び、協働的な学びの実現」「オンラインを活用した学びの保障と充実」を掲げ、「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指していきます。

2. GIGA第1期の総括

本市では、GIGAスクール構想実現に向けて以下のように環境整備を進めてきました。

- ・児童生徒1人1台のiPad（キーボード付きカバー）配付
- ・授業者、管理職、養護教諭、栄養教諭、学校図書館司書1人1台のiPad配付
- ・大型提示装置（プロジェクター）を普通教室及び特別教室へ配置
- ・無線アクセスポイントを普通教室、特別教室及び体育館に設置
- ・充電保管庫を各教室に設置
- ・高速通信ネットワークの整備
- ・フィルタリングソフトの導入
- ・Webカメラの整備（普通教室分）
- ・家庭学習のためのモバイルルーターの貸与
- ・校外学習用モバイルルーターの貸与
- ・授業支援アプリの導入
- ・AI型ドリルの導入
- ・学習eポータルへの導入

このような環境の下、子どもたちが1人1台端末を活用した「主体的・対話的で深い学び」を実現するために、伴走者である教職員の研修や推進委員会等を開催してきました。目的や個に応じた研修の充実を図るとともに、推進委員会では各学校での困りや悩みに直結するようなテーマを設定し、講義や協議、情報共有等を行うことで、1人1台端末の積極的な活用を進めてきました。

令和6年度の全国学力・学習状況調査児童生徒質問紙のICT機器の活用についての7つの項目においては、小学校6年生、中学校3年生とも全ての項目で肯定的な回答が全国平均を上回っている状況があり、効果的な活用が広まってきていると言えます。

しかし、1人1台端末の活用頻度については学校間や学校内で格差が広がってきているという現状もあります。GIGA第2期では、アプリ等の基本的な操作はもとより、授業での活用場面や活用方法が具体的にイメージできるような研修や実践事例の共有等をさらに充実していく必要があると考えています。

3. 1人1台端末の利活用方策

これらの現状を踏まえ、以下のとおり1人1台端末の効果的な利活用推進に向けて取り組んでいきます。

(1) 1人1台端末の積極的活用

- 学校間格差や学校内格差をなくすための研修の見直しと推進委員会の充実
- ICT支援員等のサポート体制の見直し

(2) 個別最適な学び、協働的な学びの実現

- AI型ドリルによる「指導の個別化」と「学習の個性化」の充実
- 効果的な活用を探るための実践事例の共有や授業参観等の実施

(3) オンラインを活用した学びの保障と充実

- 緊急時及び長期欠席児童生徒等に対する学びの保障
(AI型ドリル、学習支援アプリ、オンライン授業等)
- 遠隔会議システムを利用した多様な人とのつながり